

第46回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

中学校3年生の部 最優秀賞

多聞の旅路

川湯中学校 大村 紫苑さん



あなたはペットを飼っていますか。一緒に遊び、一緒に寝て、悲しい時には寄り添ってくれる。そんなペ

ットがいますか。この物語は、賢い犬「多聞」が色々な人と一緒に寄り添いながら過ごす場面が多くあります。私は最初、この物語は少年と犬の成長物語だと思い購入して読みました。ですが、私の予想とは違い、この物語は多聞という犬の旅の物語でした。

この物語は東北で起こった大震災の影響で飼い主を亡くしてしまつた多聞が、震災前に出会つた男の子「光」に会いに行くために旅に出るお話です。道中、たくさんの人に幸せと死をもたらしながら五年かけて九州へ行きます。九州でやっと出会えた光は震災のショックで声と感情を失っていました。そんな光に多聞は声と感情を届けます。多聞と出会つた瞬間に光は多聞の名前を呼び、一瞬で笑顔になりました。その日から多聞と共に過ごしていき、光は少しずつ普通の生活が出来るようになっていきます。そんなある日、九州で震度六弱の地震が起こります。建物は崩壊し、光と多聞へ倒れていきます。すぐに救出され、光は救急車で病院へ、多聞は車で

動物病院へ連れていきました。光は多聞が守ってくれたおかげで無傷でしたが、多聞は重傷で安楽死を余儀なくされました。光の両親は光にその事実を伝えると、

「多聞の声が聞こえたんだ。僕はずっとそばにいるからね。心配することないんだよって」

と言いました。光は多聞のおかげで普通の暮らしを手に入れたのでした。

多聞は光と出会うまでの五年間、色々な家族に出会います。震災の影響で職を失い、認知症の母とその母を介護する姉のために犯罪に手を染めてしまつた人。泥棒をしなくては生きられない環境に生まれ、育ってしまった人。十数年の時を経て、愛を失い始めてしまつた夫婦。愛する彼に見捨てられてしまつた人。膀胱癌に侵されながらも最後まで家族のことを愛し、撃たれた人。たくさんの人に出会いました。私は多聞が人間には感じ取れない「何か」を感じ取つてその人のもとに現れているのではないかと考えました。多聞は光が震災のショックで心を閉ざしてしまつたことを感じ取り、光のいる九州に向かつていったのではないのでしょうか。

多聞はとても賢く、一度も人を裏切つたことはありません。それは、他の動物にも言えることです。私の家では猫を飼っています。心が通い、いつも私のそばにいて、どんなときも寄り添ってくれる猫が。猫も多聞と同様に人間には感じることでできない何かを感じる事ができます。そして、人間は動物の言葉を聞

くことが出来ませんが、動物は人間の言葉を聞くことが出来ます。私が声をかけると猫はすぐに寄ってきます。動物が人間を裏切ることはありません。ですが、人間は「可愛くなくなったから」などという理由で簡単に動物を裏切ります。私の家で飼っている猫は七歳を迎え、人間でいうとシニアです。望んでもずつと長い間一緒にいられるわけではありません。ですから、今ある時間を有意義に過ごしていきたいと思っています。私は今まで猫に救われてきたので、動物を信じれば、絶対幸せになれることを信じて、最後まで共に過ごしてほしいと思います。

この物語に出てきた人たちも、本人が良いと感じるか悪いと感じるかは別ですが、多聞と出会つたおかげで人生が大きく変わりました。動物は時には人の人生すら大きく変えることのできる力を持っているのではないかと思います。

書名『少年と犬』

馳 星周 著

〔寸評〕人は、たとえ同じ本を読んでも、受け取るメッセージがそれぞれ違う。そして、年を経ると同じ本を読み返しても、また違った味わいがある。旅をする「多聞」を介したオムニバス形式の本作。さまざまな境遇の人々を追う中で、読者は何を思うのか。大村さんが注目したのは、自分の経験と照らし合わせた少年と犬の関係性であった。これが、五年後ならば、十年後ならば、大村さんはどんな感想を抱くだろうか。ぜひ、再読してもらいたい。

高校生の部 最優秀賞

ロマンチックドリーム

弟子屈高校2年 羽田 安梨沙さん



いい年をした大人が「私の夢は、妖精になる事なの！」と言つたとすると、さししょう。その人に、できるよ！と言えますか？きつと無理だと思つてしまう。実際私もそう思

っています。私が魔法使いでない限り叶う夢ではありません。しかし、子供の頃は色んな夢があつて妖精になる夢だろうが何だろうが叶う事のない夢をみてよかつたのです。そう……大人は誰もがはじめは子どもだつた。どんなに頭のいい科学者も政治家も子どもだつたのだから妖精になりたい！と言つても叶う事がないであろう事でも夢にして良いと思います。かなり長くなりましたが私が言いたい事は「大人になつても夢をたくさん見つける

が大切だという事です。私の幼い頃の夢は、美容師になる事だつたり、幼稚園の先生になる事とかにかつたたくさんありました。しかし、高校二年生になつた今は片手で数えるほどしかありません。なぜでしょうか。それは、私がああ頃より大人になつたからです。私が、今回読んだ本は『星の王子さ

ま』という多くの人から愛されている本です。もちろん私もこの本が大好きで5回ほど繰り返し、読み返しています。一言で言いたい事は難しいですが、私が思うに「子どもだつた頃を忘れない」というのが合っているのかなと思います。子どもだつた頃の思い出とかではなくてその時の考え方や見方の事を忘れな

い大人はめずらしいです。大人になると現実的な考え方ができなくなるからです。私は、この本を読むと美容師になりたかつたはずなのにいつから大金持ちになるのが夢になつてしまつたのだらう……と悲しくなります(笑)そもそも、夢とは将来実現させたいと思つている事柄や現実からはなれた空想や楽しい考えの事を指します。辞書に書いていました。この事から、現実的でない事でも良いという事です。辞書が、そう言うのなら間違ひではないですよ。この事は最初の方に言つていた妖精になる夢を見ても良いという事です。しかし、こんな夢みる乙女な大人は新たな惑星が見つかるとレベルでいいと思います。

でも、そういう人が増えたら良いなと思います。周りにおかしいと言われても自分の夢をあきらめなければいつか、叶うかもしれない、少しでも可能性があるのなら信じてみる事それが大切だと思つています。もし、可能性がないとしたら自分で研究してみれば良いと思つています。もしかすると本当に妖精になれたりするかもしれない。ロマンチックの今、世界中が暗くなっている今こそ子どもの頃の夢

を思い出したり夢を見つける事で少しでも明るくなるのではないかなと思つます。夢を追わない人生なんてとてもつまらないと思うので、私は夢はたくさんあつた方が良く思いました。人生を楽しくするのは、先生でも友達でも家族でもなく自分自身です。毎日を、ポーンとして過ごさずにやりたい事を見つけてみて下さい。そうする事で人生はとても夢にあふれた素敵なものになるでしょう。最後に、いつか私の大金持ちになる夢も叶う事を祈ります。アーメン。星の王子さまという本に出あつた事に感謝します。

書名『星の王子様』

サン＝テグジュペリ 著

〔寸評〕今、高校生は、それぞれが社会に適応しようと必死です。羽田さんの、この感想文は、同年代の他の高校生と同じように社会と真剣に向き合つていくこと、小さい頃から夢を持ち続けることとの両立が絶妙に描かれている文章でした。高2で具体的な進路の設計を立て、高3で進路を決定するという今後の高校生活を通して、現実と向き合いながらも夢を膨らませていくことを願います。大人が勇気づけられる文章を書いてくれて、心から感謝の意を表します。

※生徒の学年は、コンクールが行われた令和3年度当時のものです。